

# 風しん第5期(接種期間延長)定期接種用

予防接種のしおり〈接種前にお読みください〉

## 「麻しん風しん混合ワクチン(MR)」 「風しん単独ワクチン」

### 【ワクチンの受け方】

#### ★ 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱をしている人(通常37.5℃以上の場合)
- ② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 麻しん風しん混合ワクチンの接種液に含まれる成分で、アナフィラキシー(通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと)を起こしたことがあることが明らかな人
- ④ 免疫機能に異常がある人・免疫抑制をおこなう治療を受けている人
- ⑤ 妊娠している人および妊娠している可能性のある人
- ⑥ その他、医師が不適切な状態と判断した人

#### ★ 予防接種を受けた後の注意

- ① 予防接種を受けた後30分間程度は、病院にいるなどして様子を観察し、医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがあります。
- ② 接種後、4週間は副反応に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ④ 当日は激しい運動は避けましょう。
- ⑤ 他の予防接種を受ける場合は**27日以上**あけてください。
- ⑥ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

#### ★ 「麻しん風しん混合ワクチン」、「風しん単独ワクチン」の副反応

副反応の主なものは、接種後5～14日に発現のピークがある発熱と発しんです。接種直後から数日中に過敏症状と考えられる発熱、発しん、かゆみなどが起こることがありますが、通常1～3日で治ります。アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれんなどの副反応がまれに生じる可能性があります。

#### 《予防接種健康被害救済制度》

副反応の症状が出て心配な場合は、医師(医療機関)の診察を受けてください。予防接種は感染症を予防するために重要なものですが、極めてまれではあるものの、副反応による健康被害(病気になったり障がいが残ったりすること)をなくすことはできないことから救済制度が設けられており、ワクチンが原因の健康被害と認定された場合には給付があります。

より詳しい情報については、右記の厚生労働省ホームページをご確認ください。



#### ● 風しんとは

風しんウイルスの飛沫感染によって起こり、軽い風邪症状で始まり、発しん、発熱、後頸部リンパ節の腫れなどがみられます。発しんも熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれます。大人になってかかると高熱や発しんが長く続いたり、関節痛が生じたりするなど、症状が重くなる場合があります。また、妊婦が妊娠早期にかかると、心臓病、白内障、聴力障がいなどの病気を持った子どもが生まれる(先天性風しん症候群)可能性が高くなります。

#### ● 麻しん(はしか)とは

麻しんウイルスの空気感染・飛沫感染・接触感染によって起こります。感染力が強く、発熱、せき、鼻汁、めやに、発しんを主症状とします。ウイルスに感染後、無症状の時期(潜伏期間)が約10～12日続き、その後、症状が出始め、最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時熱が下がりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発しんが出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。麻しんにかかると数年から10数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎という重い脳炎を発症することがあります。(約10万例に1～2例発生)麻しんにかかった人のうち数千人に1人の割合で死亡することがあります。